

1. 各種臓器のシンチスキャンニングの興味ある経験例について

—とくに肝シンチグラムについて—

中川昌壮 木下 陽

(岡山大学 小坂内科)

肝臓のシンチグラムで明瞭な欠損像をえる場合はその診断は比較的容易であるが、radio-activity の diffuse な減少像の場合、その病的意義づけは困難である。 ^{198}Au colloid による scintigram で肝右葉ならびに左葉の上記のごとき病変を示した症例について検討した。Budd-Chiari 症候群の2例で、右葉の radioactivity は左葉に比し低く肝血流異常と考えられた。下大静脈撮影により閉塞を確認するとともに、左方横隔膜面への副血行路形成を認め、左葉への血流の代償を示すものと考えた。しかし本症の別の1例でまったく正常範囲の像をえた。同様の分布異常を示したものに原発性肝癌の1例があった。次に左葉の変化は一層解釈しにくい、同様な radioactivity の分布異常より診断しえた肝癌の2例を経験した。さらに、肝左葉の側方への異常な拡大像を示した症例で、 ^{131}I rose bengal, あるいは ^{203}Hg -MHP 併用により脾像の関与の有無を明らかにしえた症例について報告した。

*

2. 臓器スキャンニングによって興味ある知見を得た2, 3の症例

尾崎幸成 岩崎一郎

太田善介 木畑正義

兵頭浩二郎 江沢英光

名和英明 長谷川真

(岡山大学 平木内科)

臓器シンチグラムを臨床診断に応用して興味ある知見をえたので報告する。症例1および2は左腎臓欠損の例で、 ^{203}Hg -Neohydrin $3\mu\text{Ci/kg}$ 体重静注1~2時間後にスキャンニングを行ない、左腎無形成と診断す。症例3は鑑別困難な左上腹部腫瘤を主訴とし、renoscintigram で左腎は下方に位置し打点も少なく小さな像を認め、腫瘤は左腎上部に関係したものと判定、同時に左腎の機能低下あることを認めた。結局左腎被膜の fibrosarcoma が摘出された。症例4は同じく左上腹部の腫瘤で脾腫が疑われたが、 ^{51}Cr 加熱処置赤血球法による脾シンチグラムで脾とは無関係の腫瘤と判定、結局副腎皮質腺腫と判明した。症例5もやはり鑑別困難な左上腹部の腫瘤で、

^{203}Hg -BMHP により脾シンチグラムで脾腫は否定され、renogram でも腎腫瘍は否定された。結局脾臓囊腫と判明した。以上 renoscintigram により腎無形を確認し、腎機能をも知りえた2症例および鑑別困難な左上腹部腫瘤の診断に脾、腎のスキャンニングが大きな役割を果たした3例を経験し報告した。

*

3. 昭和36年から40年迄の当院に於けるアイソトープ即ち主として ^{131}I その他 ^{60}Co , ^{198}Au 等の使用状況について

手島泰晴<内科>

荒木判二<放射線科>

(尾道綜合病院)

私どもは昭和36年以来アイソトープを診断ならびに治療に応用してきた。その主なるものは ^{131}I で、甲状腺機能ならびに治療は Radiocaps 1017件、Oriodide は226例である。その他 Rose-Bengal は227件、スキャンニングは46例。Hippuran は68例、Raolin は56例。その他 RISA および Triosorb は少数例である。 ^{32}P は治療に99例、 ^{198}Au および ^{51}Cr は少数例。 ^{60}Co 針は耳外科では1385件、婦人科では127例であった。

Tele ^{60}Co の治療例数は癌が大部分で男301例、女562例であった。

*

4. 腎シンチグラムおよび腎摂取率測定

仁平寛巳 久世益治 大北純三

多嘉良稔 田尻葵矩夫<泌尿器科>

桜井 孝 山田典将<放射線科>

(山口大学)

^{203}Hg -Labeled chlormerodrin による renal scanning について、試作した7 holes honeycone type collimator による実施方法を報告して臨床例を供覧した。さらに左右別の腎摂取率測定法を報告し、この値は尿管カテーテル法による分担腎クリアランスの C_{PAH} と比較的良好な相関関係を示すことをのべて、renal scanning は腎実質内限局性病変の診断に有用のみならず、これに腎摂取率測定法を併用すれば腎性高血圧症、とくに腎血管性高血圧の screening に有力な検査法であることを動物実験と臨床例を供覧して報告した。

*